

平成30年度 第1回 湯沢町都市計画審議会 都市マスタープラン及び立地適正化計画の検討 議事録

1. 開催概要

○日 時：平成30年11月21日（水）13:30～16:00

○場 所：湯沢町役場 3階 大会議室

○出席者：委 員）林会長、岡田委員、師田委員、田村委員、赤沼委員、焼田委員（代理）、高橋委員、富井委員、南雲委員、富樫委員
事務局）地域整備部建設課 森下部長、丸山課長、関参事、青木主事

○議題

- (1) 背景と目的
- (2) 検討手順・体制
- (3) まちづくりの現況と課題
- (4) まちづくりの方針

2. 議事概要

事務局	(開会)
地域整備部長	(あいさつ)
各委員	(あいさつ)
事務局	湯沢町都市計画審議会条例第5条により、林会長が議長となる。

(1) 背景と目的

事務局	「(1) 背景と目的」を説明。
会長	<ul style="list-style-type: none">・ 今日配られている湯沢町総合計画は、平成27年の総合戦略の検討を反映した最新版になっている。両方とも私が座長でまとめた計画なので事務局の説明に補足すると、厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所のシミュレーションでは、現時点の人口は7,800人程度になっている予測があった。ところが、少し予定が狂って転入が多く、特に60歳代前半の独身男性の転入が多くて人口が減らなかった。・ しかし、高齢化については、子どもの減少が激しかったため、予測よりも2%程早く進んでいる。今のところは人口8,100人程度で推移しているが、人口ビジョンのシミュレーション結果では、長期的に見ると子供の減少が激しく、20年後くらいに急激に人口が減少するという予測であった。・ もう一つの湯沢町の特徴としては、15～20歳の女性が毎年転入超過である。おそらく、旅館業に就職される方が多いと思われる。一方で、20～25歳の女性は転出

超過で十代後半から大幅にマイナスになっている。つまり、就職した方が辞めてどこかへ行ってしまうという現象が顕著に表れている。

- ・歩いて暮らせるまちについて、2～3年後に免許を返納しようと思っているという方から聞いた話がある。越後湯沢駅近くのリゾートマンションに暮らしている方で、歩いて暮らせるまちか、今一度考えてみたところ、銀行、病院、郵便局、小さいコンビニ・スーパーは歩いて行けるが、役場が一番不便な場所にあるということだった。その方に、公民館に役場の一部機能があったらどうか、と聞いたら、それなら免許を返納しても暮らしていけるという話があったので、意見として参考にさせていただきたい。

委員

- ・湯沢町は12月～4月頃の冬期間の労働者が増える特徴があるため、定住人口は6月や9月を基準に捉える必要があるのではないか。
- ・前年度から人口は8,050人程度で減っていない要素としては、マンションに入居する方が居ることにある。マンション入居者はだいたい1,200人居て、町の人口は1年で100人減少しているが、マンションは120人の増加があり、世帯数では100世帯増加し、70歳代が最も多い。
- ・定住人口をシビアに見るには、その辺りを考慮すべきである。

会長

- ・昨年12月は外国人だけで280人の転入届けがあった。これが4月には200人減少しており、外国人だけで冬期の定住人口が200人増えているということで、冬期の人口はあてにならない。日本人の転入を考えると、冬期の人口は更に増えている。12月末で集計すると8,300～8,400人近い人口になると思うが、6月頃には数百人マイナスになるので、季節変動が余りにも大きい。
- ・季節変動も加味した計画にしていかなければならない。1年に3～4か月しか滞在しない人は、定住者と見なせないのではないか。

事務局

- ・人口について補足すると、9月末の人口の比較は、湯沢町にとっては安定している。平成29年と28年の9月の対前年比を見ると、34人増加している。年代別では、60～65歳が+20人、65～75歳が+6人と多く、意外なところでは30～40歳が+18人というデータも出ている。
- ・季節や年齢層の特性については注視していく必要があると感じている。

会長

- ・外国人の受け入れについては国会でも審議されているところであるが、湯沢町の場合はインバウンド対応のための外国人を雇用するという段階に来ている。
- ・先ほど、昨年12月末に外国人の住民登録が280人増えたと言ったが、住民登録していない外国人を含めると外国人はもっと多いだろう。

委員

- ・単に人口が増えれば良いということではなく、世帯数の動向も見ておく必要があると思う。

会長

- ・総合戦略会議で65歳以上だけの世帯数の集計を町へ依頼したので、町は高齢者世帯の状況を把握しているはずである。高齢者世帯の状況を把握し、冬の雪処理など、

65歳以上世帯の冬の間の生活をどうするか、という議論も重要である。

- ・世帯数もそうであるが、中長期的に見て子どもの数が増えないということが一番大きな問題で、まちづくりに当たっては将来的に高齢化率が50%を超えるような状態にあるときに、現状に合わせてまちづくりをしてもしょうがないので、高齢化率が急激に進む前提で議論していかないといけないと感じている。

委員 ・資料では地域区分を6つに分けているが、観光で考えるエリアは3つである。観光との整合を図る必要があるのではないか。

会長 ・住民の日常生活の視点でとらえた区分ということではないか。

事務局 ・エリアについては観光面も考慮していく。

- 委員
- ・苗場のマンションは高齢化が進んでおり、高齢者の対応が大変。まちのなかにも若い人が少ない。
 - ・苗場で商売をしても住所は東京という人もおり、固定資産税や町民税が町の収入にならない。
 - ・若い人の働く場所があると良いまちになると思う。

委員 ・経済と人口は大きくリンクしている。特に土樽や苗場のようなエリアは、スキー場が無くなると経済と人口への影響が大きい。経済と人口問題もリンクさせて考えないと、うまくいかないと思う。

- 会長
- ・経済に関しては今後、外国人労働者が大量に流入する可能性もあるので、その人たちへの対応をどうするか、という視点も背景に入れるべきではないか。外国人居住者の受け入れ方の議論も必要である。
 - ・私は3年前から行政と視察に回っており、群馬県の大泉では、ブラジル人が人口の18%住んでいて、小学校の1クラスに2～3人いる状況である。インフラについては、民間がブラジル人街を先に開発してしまい、整備が追い付かない状況も発生している。
 - ・また、長野県の白馬では、オーストラリア人が廃業したペンションを買い取って外国人旅行者向けに従業員も外国人を雇って運営しているが、スキーシーズンが終わると居なくなり、固定資産税を踏み倒すといった問題も起きているそうだ。
 - ・外国人居住者が増えることで、大変な混乱を及ぼす可能性があるので、考慮した検討が必要ではないか。

(2) 検討手順・体制

事務局 「(2) 検討手順・体制」を説明。

会長 ・平成31年以降の年表記は西暦のみで良い。

(3) まちづくりの現況と課題

事務局	「(3) まちづくりの現況と課題」を説明。
委員	<ul style="list-style-type: none">・ 越後湯沢駅周辺に住んでいるが、スーパーも郵便局も近くにあるので不便さは感じない。バスに乗れば、南魚沼にも買い物に行ける。・ ただ、1歳の娘がいるので、子育て施設へのアクセス性が良ければいいと思う。若い人をこの先誘致するのであれば、子育て支援の充実は若い人への売りにもなると思う。・ 湯沢町の高齢化が全国の自治体に比べてどの位置にあるかわからないが、高齢化が先行している場所、例えば四国などの現状や行政の対応の事例を勉強しておく、湯沢町の未来が見えて良いのではないかと。・ 町の財政力はどうなっているか。財政状況によって、取り組み内容にも関わってくると思う。財政力に応じた集約やゾーニングを行い、総花的な計画にならないようにする必要はあると思う。・ 全国的に空き家対策が行われているところであるが、湯沢町の実状や今後の予測はどうなっているか。空き家、空き地の活用は、機能集約のチャンスと捉えることもできるのではないかと。
事務局	<ul style="list-style-type: none">・ 数字だけ見ると湯沢町の財政力指数は高い。湯沢町は刈羽村と、聖籠町と共に県内トップ3に入っているが、財政力があるというわけではない。・ 当面は財政的に厳しいということではなく、公共施設の統廃合、管理などの経費を抑えることでやっていけるのではないかと。・ 空き家は全町で昨年度に調査を実施し、結果が出ている。
会長	<ul style="list-style-type: none">・ 空き家の実態が把握できないとまちづくりが把握できない。・ 税金に関しては固定資産税の割合が大きく、まとまった産業がなくいびつな構造となっている。将来の安定的な町政運営のために、観光税などを取り入れなければインフラの破却もできなくなる。別府温泉では入湯税を段階的に設けており参考になるので、検討していかなければと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none">・ 湯沢町は、国道17号などをはじめとした交通に恵まれていると思う。・ 道の駅は地域の拠点化、活性化が盛んで、湯沢町においても活用方法のテコ入れができるのではないかと。・ 地域の足として自動運転の検討が進められるなど、交通手段のこれまでとは違う使い方の可能性も出てくるので、頭の片隅に入れておいても良いのではないかと。・ 町のイメージは冬のスキーがかなりのウエイトを占めていると思う。現在、キャンプなどが流行っているので、夏場の観光客を呼びこめる要素になるのではないかと。
委員	<ul style="list-style-type: none">・ ここで挙げられた課題については、確かにそうだと思う。また、立地適正化計画は、一般的には既成市街地等への集約が基本的な考え方であるが、湯沢町の場合はそれ以外の地域にマンションが多く、相当に空いているという状況もあるようなの

で、それらのマンションを人口の受け皿として、また、起業支援の一環として安いコストでオフィスとして提供するなど、一般的な立地適正化計画と違う考え方が必要だと思う。湯沢の実態に合った形で考えられると良いと感じた。

会長

- ・ 商工会の1階のインキュベーションセンターで起業・創業支援を行っている。また、町でも補助金制度がある。11月20日現在で登録者数が39名。過去2年間の間に17件が補助金制度を使って起業した。加えて、補助金なしの起業が3件と、全部で20件の実績がある。今年度からは、起業後の経営状況の把握とコンサルティングを始めており、町をあげたサポート体制を実行している。
- ・ 委員に伺いたい、今後も400万人の観光客を見込めると思うか。

委員

- ・ 湯沢町は立地条件が良く、観光客の伸び率はまちづくりによって、いくらでも変わる。
- ・ 湯沢はこれといった特徴がない。観光客の求めるものが全く見えてない。温泉通りも他のまちと変わりが無い。現在行っている電線を民地に寄せるなど、歩きやすい環境整備とともに、歴史・文化・伝統をつくり上げるのがまちづくりであると思う。
- ・ 私が昔講演したときに言ったのが、旅館とまちづくりは一緒であるということ。駅を出た所が旅館で言う玄関、まちのイメージができる場所で、通りが廊下、飲食店が料亭、外湯がお風呂、宿泊施設は泊まるところのイメージ。それぞれが役割を持ちながら、町の中のスタイル・雰囲気づくりが重要だと思う。「施設、料理、サービス、環境・雰囲気」を私は旅館の4要素と言っているが、この4要素に歴史・文化・伝統をどう付け加えるかという事がまちづくりに必要かと思う。
- ・ 温泉通りの検討も1歩進めることができた状況にあるが、まだこの先が大切である。

会長

- ・ 観光はスキー客の割合が大変多いが、東京オリンピック後になると、-10%は覚悟しないといけないという予測もある。湯沢町で400万人を維持するには、通年で考えなければいけない。
- ・ 旅館業界では2024年問題というのがあって、いま秋口の平日の観光客は団塊世代の女性が多くを占めているが、2024年にこの世代の人口が急激に減るため、特に冬の観光客に依存している湯沢町では影響が大きいと考えられる。
- ・ 委員に伺いたい、スキー客の増減はどれくらい把握しているか。

委員

- ・ スキー客向けの宣伝をしなくなったので、今は100%リピーターでやっているが、このままでは厳しい見込みである。スキーと合宿をメインにやっているが、子どもが少なくなっていることや、PTAの事故の不安などで日数が抑えられている。
- ・ 中里では、スキーよりも夏の合宿の売り上げの比率が大きくなっている。夏の利用は極端に減っている訳ではないが、年間を通しての観光には今後を考えると夏に力を入れなければならないと思う。
- ・ 観光には世代交代や跡継ぎの課題もある。少子化もあるし、価値観が変わってきて跡継ぎを強制することはできない。
- ・ 今後はプラス面を伸ばす事が問題解決にもなると思う。

- 委員
- ・ アンケート結果を私の気持ちと同じだと思って見ていた。
 - ・ 湯沢は温泉が有名だが、どんな温泉があるのかわからない。温泉街の将来像はあるのか。
- 委員
- ・ 町のプラン、広域のプランで観光を頑張っている。温泉街では 20 年くらい継続して取り組んできている。
 - ・ お客さんは広域で動くものということで、雪国観光圏を形成して 7 市町村でまとまって受入体制を作っている。また、それだけでなく、個々の旅館でも頑張っている。
- 委員
- ・ 湯沢らしいプランが欲しい。東京からのアクセスが良いが、町に一步入ると見所や、どのように周ったら良いかわからない。
 - ・ 私は駅前に住んでいるので、生活に問題はないと感じている。買い物はマンションの方達はハーツへ行っている。往復で 3,000 歩程度なので、歩いていくのが大変という方は年々増えており、アクセスが良くなると良い。
 - ・ 湯沢でも将来的に無人自動車をやってほしい。秋田県の田沢湖で無人のシャトルバスがあるので参考にされてはどうか。
 - ・ コミュニティバス、デマンドバスの導入がされるといいと思う。エリアを結ぶ交通ロードマップはあるか。
- 事務局
- ・ 湯沢町ではコミュニティバスは考えていない。路線バスと福祉バスを使ってもらっている。11 月から湯沢地域でも福祉バスのサービスを開始した。
 - ・ 国道、県道では路線バスが 1 日何本も走っている。通常、コミュニティバス、デマンドタクシーは細かい交通網の機能していないところで利用されているが、湯沢町はその辺は充実している方だと思うので、今ある手段を効率的に使える施策、運用をやっていく方向にしたい。
- 会長
- ・ 南魚沼市や十日町市の市民バスは乗車率が低いのに、住民要望を聞くと本数の増加やバス停の増加の要望が上がってくるようだ。
 - ・ 現実的には難しいかもしれないが、私はライドシェアを導入したい。アプリでグループを作って近くで車を使っている人に乗せてもらうシステムで、無料でなく、利用料も取る。特区で社会実験をやれないだろうか。湯沢独自のオリジナリティのあるものを作っていくことが重要だと思う。法律的に難しいと思うが、特区での申請なら何とかできるのではないだろうか。
- 委員
- ・ ライドシェアについて議論されているのは聞いたことがあるが、ハードルが高いようだ。しかし、社会実験を行う可能性はあると思う。
- 会長
- ・ 社会実験をやることによって住民の意識も変わってくると思うし、社会実験をやりながら費用対効果の部分もしっかり検討していく。自動運転が導入される頃には、ライドシェアは法律的に大丈夫になっていると思う。ライドシェアの導入は互助の精神でやっていくことが重要。実用化に向けて議会でも話し合っていたきたい。

- 委員
- ・越後湯沢駅周辺の高齢者は六日町へ電車で行くケースもある。コミュニティバス等があれば買い物などに出かけて、途中でどこか公園に休憩で立ち寄りなどできると良い。そうすれば公園等が生きてくる。主水公園も誰もいないが、もっと活用できるのではないかな。
 - ・資料2の7ページに書いてあることを全うすることで良い町になるのではないかなと思う。
 - ・横浜市で日産とDeNAが無人運転の交通サービスをやっているのだから、ぜひ湯沢町にも導入の検討をお願いしたい。
 - ・越後湯沢駅から先は車がない人は動きづらい。コミュニティバスがあれば生活が楽になると同時に、まちのアピールにもなる。
- 委員
- ・越後湯沢駅から苗場までは路線バスで夏は40分、冬は50分である。バス停までの所要時間は遠い所だと20～30分かかる。今の苗場はお店が少なく、生活している人にも支障が出ている。食堂などもあるが店の都合で開いたり閉めたりといった状況なので何もない。都会から来た人も、お金の使い道がない。今の苗場の状態がこんな感じなので生活している人は大変だと思う。
 - ・聞くが、温泉通りで建設中のホテルはいつオープンする予定か。
- 委員
- ・今のところ3月1日がプレオープンで、3月21日がグランドオープン。ただし、あくまで予定であり伸びる可能性もあるが、4月までにはオープンするようである。
- 会長
- ・苗場周辺にお住まいでパソコンを使える方だと、ネットスーパーを利用しているケースがけっこうあるようだ。スマホやタブレットが使えれば、先ほど提案したライドシェアも関連するが、三重県に行政が専用のアプリを作って高齢者にタブレットを貸し出して社会実験を行っている所があり、移動手段と買い物の両方に対応した取り組みも考えられる。
- 委員
- ・私も冬はスーパーの宅配を使っている。
- 会長
- ・高齢者にとって、米や醤油、酒など重たいもの、トイレトペーパーなどのかさ張るものの買い物はネックになっている。
- 委員
- ・買い物は町内会の顔見知りでも調整しても良い。お年寄りにとって安心できる。お年寄りの方は週に1回でも2回でも、塩沢や六日町に行くのを楽しみにされている。利便性と福祉は複合的に絡んでいると思うので、両者を織り交ぜて対応できると良い。
 - ・少子化対策として湯沢学園をまとめることで、教育システムを選んで定住してくれたら良いと思ったが、まだうまくいっていないようだ。人口対策には誇れる何かを住民が持たないと、なかなか厳しいと思う。私は1回、湯沢を出て戻ってきているが、同じように環境に憧れて戻ってくる人が多いと思う。自分なりの良い所を持つことが重要である。

- 会長
- ・この近くで有名な観光地という軽井沢があるが、人口が3万6千人、高齢化率は26%で、湯沢町の高齢化率は軽井沢に10%プラスしたものになるが、この10%の差は大変大きな違いである。
 - ・行政も高齢化率の危機感を持たなければ、まちづくりの根本の議論はできないと思う。今後高齢化率が上がることは防ぎようがなく、少しでも減らさない努力をするしか方法が無い、というのが総合計画の議論の中心だった。人口を減らさない努力によって、7千人を切るのをいかに先延ばしができるか、高齢者の安全・安心の確保をどうするか、といった対応は今後5年が大切だと思う。それには財源をきちんと確保して、制度設計することが課題だと思う。子どもがどんどん増えるということは今後あり得ないという認識の上、まちづくりの方針の議論をしていきたい。

(4) まちづくりの方針 (案)

- 事務局
- 「(4) まちづくりの方針 (案)」を説明。
- 委員
- ・資料2、8ページの“小さなコミュニティ”とは、どういったものを目指しているのか。イメージがつかない。
- 事務局
- ・郵便局や集会所を拠点としたコミュニティの形成をこれから検討していきたい。
- 会長
- ・コンパクトシティを進めていくには、既に整備されたインフラを縮小していくことも考えなければならないと思う。例えば、使わなくなった上下水道をどのように破却するか。メンテナンスにかかる費用をどう節約するか。1日に5台しか車が通らない町道を年間何百万もかけて除雪していいのか、など、人口減少に伴い利用頻度が下がるインフラをどうするつもりか。
- 事務局
- ・建物等については「湯沢町公共施設等総合管理計画」に基づき、整合を図っていく。
- 会長
- ・高齢化に伴い集落で維持しきれない集会所や、築50年近く経って耐震基準も満たさないような、大きな地震でいつ崩れてもおかしくない集会所がある。集会所の解体費用は自治会で負担しなければならないケースがあるが、町が補助できるような制度を検討するとか、一文あってもいいのではないか。町民の安心・安全のためには、老朽化した集会所は雪で破壊されることもあるので、町の方針として必要ではないか。
- 事務局
- ・公共施設等の扱いについては、今はまだ全体的な計画の段階であり、この場で回答が難しい。
 - ・自治会への対応等、具体的な話はもう少し先の段階での議論となる。
- 委員
- ・広域で考える利便性として2次交通は必要である。コミュニティバスなど、住民も観光客も利用できるシステムが必要ではないか。

- ・ 地域区分のエリアが細かすぎる印象を受けるので、もう少しまとめた方が、定住人口、地域づくり方針で活きるのではないか。
- 委員
- ・ 地域の分け方については、資料2の2ページにある6つの地域に特性を持たせていくイメージと受け取った。まちづくりの方針でも、各地域別の方針が必要なのではないか。
 - ・ 現実では集会所や郵便局を拠点にコミュニティを成していないので、地域の実状に合った、持続できるものにしなければならない。集約した公共施設をグループホームとして使うなど、色々な課題と併せて現実的な形でとらえていくべきである。
 - ・ 6地域の区分と、資料2の8ページに示された3つの拠点の考え方は結び付くのか。
- 事務局
- ・ 地域づくり方針は現在どうなっているかだけでなく、今後どうなっていくかを示すものである。
 - ・ 地域別構想として6つに分けた部分と地域づくり方針がうまくリンクしないということであるが、6地域とのリンクを地域づくり方針にうまく盛り込んだ形で追記する方向で行きたいと思う。
- 会長
- ・ 交通モードの接続に関して、新幹線はダイヤ改正で日中の本数が減ったが、観光に影響はあるか。
- 委員
- ・ 越後湯沢駅は新潟、庄内、北陸の表玄関であった。北陸新幹線ができてからも新潟、庄内の表玄関になっている。しかし、玄関口の機能が湯沢町にあるかは疑問。駅中のお土産や、温泉通しもバラエティ豊かな店が揃っているが、広域案内所が不足している感じがする。新潟駅も広域案内所が無く、越後湯沢駅はビジターセンターがあるが狭すぎる。冬場は10万人の外国人が訪れる割に案内所が不足しているように感じており、町にも要望している。
- 会長
- ・ 県外から来た人の話であるが、越後湯沢駅の駅に3つもレンタカーがあることに驚いていた。長岡駅よりも多いが、それだけ湯沢町には需要があるということだと思った。
 - ・ 他にご意見、ご質問が無いようなので進行を事務局へ返す。
- 事務局
- ・ 次回の開催時期は1月中旬から下旬を予定している。
 - ・ 本日の資料を修正したものは次回の会議前に配布する。

(閉会)